



インタークーラーのあった位置にはミラーモニターが2枚セットされる。ただしこれはあくまでデモンストレーション用だ。ちなみにインタークーラーは前向き化されている。



ドアトリムにはスピーカーを埋め込み、オレンジのLEDでイルミネートする。さらにHKSの文字の下にはモニターがあり、こゝでもCAMP2を表示する。



マフラーやスーパーパワーフローのフレームを使ったインストールはインパクト満点！センターにはブリッジを設け、モニターが整然と並び。



ドアノブの横にも1.5インチモニターをインストール。CAMP2の画面が映っているのかわかるはず。それにしてもモニターだらけだ。



ブローオフバルブの中にツイーターを仕込んだり、スピーカーネットにスーパーパワーフローの骨格を使ったりとマフラー以外にもHKSのパーツを多用。



バンパーは基本的にはモノクラフトコンセプトRを踏襲するが、インタークーラー用に開口部を大型化したり、LEDを埋め込んだりとほぼワンオフの品だ。



助手席足元にはFコンISとOSCのユニットをインストール。一応下にパネルがあり、足を置いてもある程度の強度は確保しているが基本は展示用だ。



ボンネット自体はノーマルだが、純正を加工することで、インタークーラーのサイドに二箇所エアバレッジを設けている。



コンセプトRはベースがA-C型なので、D型である現車に合わせたシルエットに造形を変えている。しかし基本的なラインは同様。



リアバンパーの後ろにはカナード風の造形が施され、ダクトが設けられている。これもオリジナルのコンセプトRとは異なる部分。



リアバンパーはHKSのマフラー形状をより引き立たせ、フィットする形に変わっているが、マフラーの逃げのために設けられた「返し」などは同様の意匠だ。



LEGACY BB-tune

第9回

HKS LEGACY Hi-Performance PROJECT with super AUTOBACS & Club LEGACY

9回目を迎える今回は、次世代のインターフェイスツールとして期待のかかるCAMP2の全ぼうと、前々号より開発中のサスペンションキットBB-tuneのセッティング完成版のインプレッションをお届けしよう。

文：星馨介 写真：高橋学
Text：Keisuke Hoshi Photo：Manabu Takahashi

レガ注目

シイオーナー以外にものBB-tuneレガシイ

のデモカーだ！というクルマを造りたかったため、オーディオも含めた車輛製作は、コンセプトR風のボディからわかるとおりスーパーオートバックスが担当している。このHKSらしいスポーティさの象徴的なアイテムがマフラーのだが、これはパステル式エンクロージャーのダクト機能を果たしており、全くのハタリという訳ではない。付ける以上はパーツにしっかり機能を持たせるあたり、さすがHKSのデモカーといったべきだ。

さらに目を引くのはラゲッジスペースだ。HKSのデモカーでありながらオーディオが組まれているのも驚くが、なぜかそこにマフラーも装着されている？これは「一見するとHKSらしくないが、見ればナルホドHKS

「一見奇抜な構成でもHKSらしさは満載！」
HKSで今、最も熱いニューパーツといえばCAMP2。発表は先だつての東京オートサロンで行われたが、その東京オートサロンで同時にお披露目になったのがこのクルマだ。コンセプトはスバリ、CAMP2のプロモーション車両。そのためセンターコンソールやラゲッジルームはもちろん、リアゲートやドア、果てはドアノブやエンジンルームにまでモニターをインストールした。

